

まちなかりノベ事例集

CONTENTS

P.02-03

スペシャル対談

受賞者 審査員 審査員
赤井恒平 × 加賀崎勝弘 × 藤村龍至

P.04-07

受賞プロジェクト紹介

最優秀賞／優秀賞／奨励賞

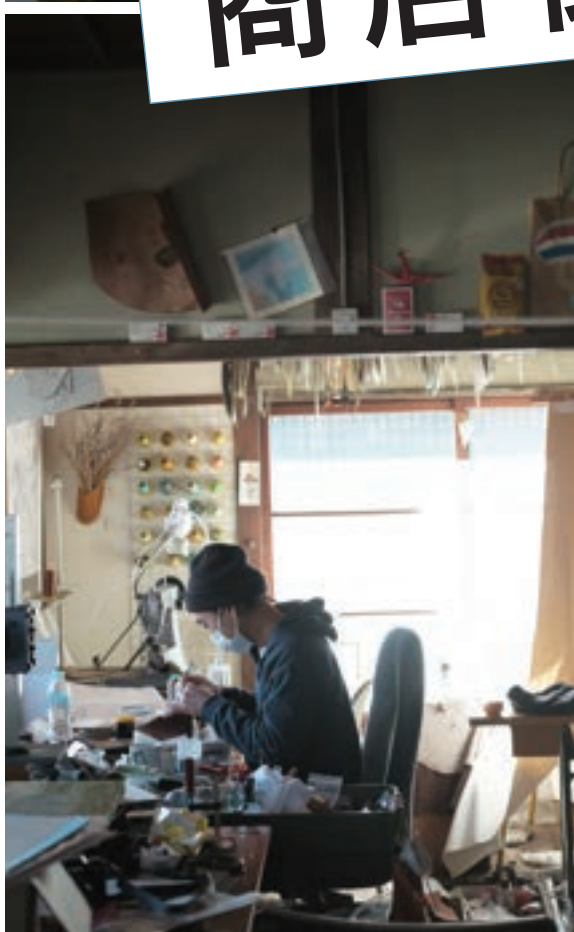
まちなかりノベ賞 | 空き店舗や空き地等を生かした地域活性化事例のコンペティション

埼玉県内の商店街や中心市街地にある空き店舗、空き地等を活用し、地域に賑わいを生んだ事例を表彰するコンペティションです。建築物の改修はもちろん、軒先の使い方の工夫などを含めた広い意味での“リノベーション”事例を対象に、地域活性化につなげたアイデアや視点を評価します。



商店街 × リノベーション

まちなかりノベ賞決定!





SPECIAL TALK

〈最優秀賞受賞者〉
AKAI Factory

赤井恒平
Kohei Akai

〈審査員〉
PUBLIC DINER

加賀崎勝弘
Katsuhiko Kagasaki

〈審査員〉
建築家

藤村龍至
Ryuji Fujimura

”リノベーションとは
その土地らしさと自分らしさを
突き詰めていくこと“

埼玉県が主催するリノベーションコンペ、その第3回となった「まちなかりノベ賞」。最優秀賞を獲得したのは、飯能市のシェアアトリエ「AKAI Factory」を営む赤井恒平さん。審査員の加賀崎勝弘さん、藤村龍至さんを変え、今回の「まちなかりノベ賞」を振り返った。

売り買いだけではない居場所をつくる

藤村 街なかのリノベーションには、イベントを行う場が定着し、そこが起点となって建物がつくられるという段階があります。今回のコンペでは、建物だけでなく、GOOD PARKのような社会実験なども応募できるようにしたので、さまざまな段階の事例が出てきましたね。いろいろなタイプの事業者に光を当てることができた気がします。

加賀崎 審査では「リノベとは何か」というところから議論した結果、土着的な取組が高く評価されました。それは「埼玉がどうあってほしいか」が問われたということだと思います。その点でも赤井さんが最優秀賞を受賞した意味は大きいですね。
赤井 ありがとうございます。その土地らしさを引き出した点が評価されたんですね。
藤村 赤井さんのプロジェクトには、人を育てる視点と街を育てる視点がハイブリッドしているように

感じました。人を育てる活動に空間的な戦略が加わると、本当の活性化につながると思うんです。
赤井 街なかを活性化しようとする店舗を増やそうと考えがちですね。でも、お金を使わなくても過ごせる場所があれば人が集まって、たくさんの方がいればお店ができます。商店街ではウィンドウショッピングもしくいいですし、まずは買い物以外の目的をつくらうと考えたんです。
加賀崎 たしかにAKAI Factoryに「買わなきゃ！」

というプレッシャーはありませんね(笑)。若者はお金がないし、そういう場所が居場所になれば、街の先輩と関わりを持つ場にもなるかもしれません。
赤井 外からは自由な空間に見えるみたいで、美大生とかが目キラキラさせて見えていますね。僕らは遊んでいるわけじゃないんですが(笑)。
藤村 「目的のなさ」をどうつくるかが重要なんですよ。たとえばSOSOPARKも路面形状の遊休地に公園のような場所をつくらうとしています。
加賀崎 受賞した取組は、どれも街に楔を打つような広がりのある場所で、その影響力は大きいと思いました。Atelier RIKA や、はかり屋、WARABI SELECT SHOPなどは、ここが活性化の出発点になっていくでしょうし。
赤井 先日、GOOD PARKに行ったら、フランス人がキッチンカーでガレットを焼いていて、たくさんの子が落ち葉で遊んでいたり、何か生まれる匂いがする、いい空間でしたね。
加賀崎 ハイランダーイン秩父も、秩父の「はしご文化」を現代風にうまくアレンジしています。昔ながらのベタなスナックと行き来する、新しい動きが生まれていますよ。
赤井 私が別会社で運営しているBookmarkは、商店街になかなか来ないファミリー層に、来る目的を持ってもらおうと、自由に使えるシェアスペースとして設けたんです。人が滞在すれば、小腹が空いてお団子を買ったり、毎週通ううちに気になる店が見つかったり、必然的に消費行動が生まれますよね。そうやって人の動きが変わることで再生されていくのが自然だという気がしますね。
加賀崎 売り買いだけの関係じゃないというのはいいですね。今回のコンペでは、そういう考え方の取組が受賞したのが大きいと思うんです。「埼玉はそういうところ」と言えるようになると、きっと小商いをしている人たちに着火するんじゃないでしょうか。赤井さんやcomeya gallery がやっている若手作家の発掘と応援は、私がこれまでできていなかったことだから、これもすごいなと思っています。

埼玉の魅力は懐の深さと暮らす人

赤井 アートに限らず、プレイヤーをピックアップするタイミングってありますよね。Bookmarkでも、中を何度も覗いてくる人がたまにいるんです。話を聞いてみると、何年か飯能で活動していて、もっと深く街と関わりたくなったという人だったりして。
藤村 匂いを嗅ぎつけて来るんですね(笑)。
赤井 ゆるく語り合うイベントを定期的に開催しているんですが、初めての方がよく参加していますし、忘年会にさえ初対面の方が来るんですよ(笑)。埼玉って、東京と違って気軽に事業を始められる環境があるし、人はそれなりに多いけれど互いの顔は見えるいいバランスがあって、懐が深いと思いますね。
加賀崎 歴史的に織田信長や武田信玄のような人がいなかったからかもしれませんね。古くからアイデンティティが熟成されてきた土地とは違い、暮らしの場としてできていったので、それが現在の63市町村にまとまり、それぞれの地域に個性が出てきたのだと思います。
藤村 「ダサイタマ」が定着したのが1983年で、映画化で話題になったマンガ『翔んで埼玉』の連載も同時期です。ただそれは、80年代当時、これといったイメージが埼玉になかったから。だからこそ、そ

*家守舎 日の出……傘手駅近くで、空き店舗を活用し、地域の人が新しいことに挑戦できる場(レンタルスペース)を運営している。

のイメージは転換しようと思いますね。
加賀崎 埼玉の魅力の多くは属人的な部分だだと思います。だから、その人たちに会うために埼玉に行きたくなる。今回のコンペでそれが可視化されたのはいいことですね。これまでは埼玉を語るときに自虐ネタが多かったんですが、そろそろまっすぐに魅力を伝えてもいいんですよ。
お金をかけるリノベからノウハウの共有へ
加賀崎 審査では、街全体への波及効果に価値や意味があると思って取組を評価しました。その点で僕が注目したのは「家守舎 日の出」(※)。選外でしたが、街に与えた影響が大きいし、きっとこれから良くなる気がするんですよ。こういう産声を拾えたのは良かったと思います。ケルンだって、建物ではなく思想やコンセプトが評価されているわけですし、選外でも根本の気持ちと同じなら、先輩から学べばいいんです。
藤村 学べるという点では汎用性も審査基準のひとつでした。たとえばAKAI Factoryには、スチールや古材を使った、よくあるリノベーション風のデザインとは違う雰囲気があります。そういうオリジナルティのある空間づくりは重要で、自分でつ

ます。今後増えていきそうですね。
藤村 いわば実家型リノベですね。事例が蓄積されていけば類型化もできそうです。「埼玉に住んでいますか?」「仲間はいますか?」と質問に答えていくと、おすすめのリノベタイプが出てくる(笑)。
加賀崎 共通点を学べるのはいいですね。リノベーションのやり方は100通りあっていいと思うんです。重要なのは、自分を突き詰めることなんじゃないかな。受賞した人たちは、きっと別の地域でも活躍できる人たちでしょうから、ぜひ県内で人材を回すようなこともしていきたい。
藤村 ただお金をかけるという方向から、ノウハウの共有へとシフトしていくといいですね。
赤井 きれいにするだけがリノベーションじゃないですから。お金がなくなったらリノベーションはできるんだと伝わればハードルも下がりますし。
加賀崎 今回の受賞事例のように、さまざまなパリエーションを見せていけば、これからリノベーションしようと考えている人が具体的にイメージできます。アイデアの数は見た数ですから、実際に見に行くことでセンスも磨かれますし。
赤井 ただ、ひとりでは始めるのは結構つらいですよ。
藤村 じゃあ、受賞者の皆さんに集まってもらって、「まちなかりノベ合宿」をやりましょうか(笑)。



AKAI Factory
赤井恒平

リクルート退社後、家業の赤井製作所を継ぐ。2016年、移転した製作所の跡地に「AKAI Factory」を、翌年には地元商店街の空き家「Bookmark」をオープン。



PUBLIC DINER 代表取締役
加賀崎勝弘

博報堂退社後、熊谷市内で「PUBLIC DINER」など8店舗を展開。「熊谷圏オーガニクス」統括プロデューサー、「埼玉県全63市町村キーマン」展の編集長。



建築家
藤村龍至

RFA主宰、東京藝術大学准教授。埼玉県内では「鳩山町コミュニティ・マルシェ」「榊コミュニティ」統括プロデューサー、「埼玉県全63市町村キーマン」展の編集長。



**まちなかりノベ賞
受賞プロジェクト紹介**

最優秀賞、優秀賞から奨励賞まで、2020年度まちなかりノベ賞の全受賞プロジェクトを、審査員コメントとともに紹介。上位3プロジェクトの受賞者を訪ね、街なかで巧みにリノベーションを行ううえでのヒントをうかがった。

最優秀賞

AKAI Factory

📍 飯能市柳町 25-9
🌐 <https://akaifactory.wixsite.com/akaifactory>

飯能駅から5分ほど歩くと、築80年の無骨な建物が現れる。実家の金属プレス工場をリノベーションし、ここでシェアアトリエを運営するのは、AKAI Factory代表の赤井恒平さん。

「僕もそうだったのですが、飯能って、若い人からすると恥ずかしいというか、自慢できるものがあまりない街なんです。そこでアートを切り口に、もっと面白くて誇れる街に変えていきたいと思って。ここは祖父の代から使っていた空間で、壊れても惜しくないです(笑)。マンションを建てたいという話もありましたが、箱だけつくっても人は来ないので」

天井が高く広々とした空間には、革細工、木工、織物、アクセサリ、ナイフなどを手がけるクラフト作家や画家など8組がアトリエを構えるほか、入居するアーティストの作品が購入できるショップやコーヒースタンド、ギャラリーも併設。2016年のオープン前には、地元の百貨店で開催されたものづくり展に足を運び、赤井さん自ら入居者を勧誘したという。

「作家同士のつながりがあるので、ひとり見つければ“芋づる式”に埋まりました(笑)。お金がなかったので、『家賃を安くするから自分でやって』とお願いして、内装はすべて入居者がDIYしています。好きなスペースを自由に使えるし、愛着も湧く。結果的に、長く入居してもらえるというメリットもありましたね」

オープンから5年目を迎え、作家のネットワークも広がっている。また、ギャラリーの展示をきっかけに市外から訪れる若いお客さんも増え、近くの商店街には新たな人の流れが生まれた。

2017年には、地元の有志とともにまちづくり会社を設立。商店街の空き店舗をリノベーションしたシェアスペース「Bookmark」を運営し、移住者や観光客のサポートほか、商店街や自治体の事業も手がける。今後は、Bookmarkとも連携して、街を使ったアートイベントや、海外から作家を招くアーティスト・イン・レジデンスなども企画していきたいと話してくれた。「入居者が固定されると、どうしてもマンネリ化してしまうので、街全体にアートをにじませていきたいんです。最初に、自慢



できるものがないなんて言いましたが、実は飯能には、まだまだ面白いアーティストがたくさん。そういう隠れた人材を発掘することで、こんなにすてきな街だったんだ! と感じてもらえたら。観光は“ムーミン”にまかせて(笑)、これからは街とより深く関わってくれる人を集めていきたいですね」

審査員コメント



今まで見えてこなかった、埼玉のアート&クラフト文脈を可視化した最高の物件! (加賀崎)



アーティストが集まることで徐々にビジネスの種が育って、続いて商業系の人たち、最後に店舗が集まるという、いい流れが生まれている。その起点になっているところを評価しました。(寺井)

優秀賞

”旧大工町長屋を中心としたエリアリノベーション“



80%

エイティパーセント

📍 川越市連雀町 27-1
🌐 <https://80per.net/>

川越市産業振興課主催のイベント「まちづくりキャンプ」で出会った4人が集まり、地元の空き物件を活用したまちづくりを行う80%。2017年にオープンした最初の物件は、観光地から少し離れた商店街に佇む、昭和30年代に建てられた長屋。埼玉県クラウドファンディングなども活用してつくられ、メンバーのひとりが店主を務める居酒屋「すずのや」、地元の「grin coffee」が入居し、かわごえ都市景観デザイン賞も受賞している。

さらに翌年には、となりの長屋にコワーキングスペースをオープン。地域の人たちを巻き込み、廃材を使ってほぼDIYでつくりあげた。最近では、近くにココア専門のゲストハウス&カフェ「ここ和」も出店、雑誌に掲載されたことで人の流れが変わり、観光客も足を伸ばすようになったという。

それでも「観光のためではなく、あくまで地元のためにやっている」と代表の荒木牧人さん。その言葉どおり、飲食店のお客さんの8割以上は地元の人、次はママたちの拠点となるシェアアトリエを仕掛けたいと話す。

「面白いことをやっている人がいれば、どんな街でも楽しくなるし、どの建物にもドラマがある。突破口を開くって言うほど強くないけれど、頑張りすぎないちょっといい毎日を提案する、そういう存在でありたいんです」

審査員コメント



無理をしないスタンス、半径200mという範囲を設定して、そのエリアの中で派生させていくやり方、さらに異なる背景を持った担い手が協力している点など、お手本のような事例。(齋藤)



存在自体が川越市の産業労働政策の成果でもあり、まちなかりノベ賞が目指す王道。埼玉のリノベーションの模範として活躍を期待しています。(藤村)

優秀賞

”週末1日、4時間だけ開かれる街のギャラリー&編集室“

comeya gallery + place

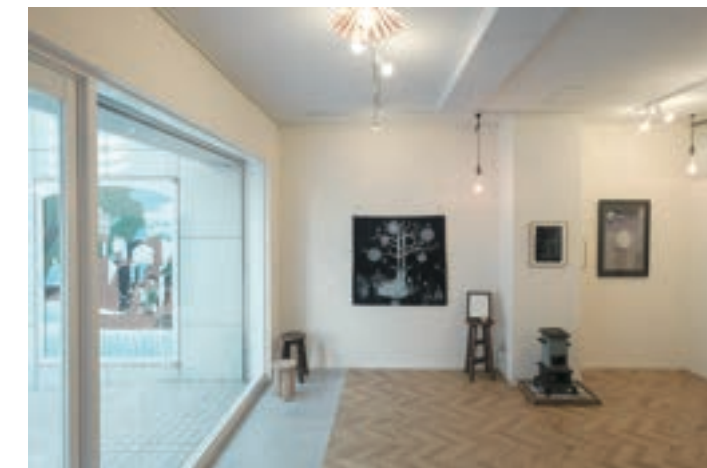
📍 東松山市箭弓町 1-14-10 吉田ビル 1F
🌐 <https://comeya.wixsite.com/comeya>

開いているのは毎週土曜日13~17時の4時間だけで、利用料もとらない。そんな不思議なギャラリーの主は、東松山で育ち、現在は東京・世田谷でデザイン事務所を営む吉田幸平さんと、妻の和古さん。相続した物件に借り手が見つからず困っていたが、「1階は街の顔だし、地域に対する責任もある。だったら自分たちで何か始めよう」と思いたち、2015年にcomeya galleryをオープンした。

ギャラリーでは、埼玉県の作家や障害を持ったアーティストなどの個展を年に5~6回行うほか、地元の有機農家やパン屋が出店するマーケットも開催。また、地域で暮らす人々の人生を冊子にまとめる「聞き書きプロジェクト」をきっかけに個人誌などの出版を手がけるなど、本業のデザインを生かした活動へと広がっている。

近所の子どもの遊びにきたり、ふらっと入ってきた人が悩み事を話したり、comeya galleryのオープン以降埋まった周辺の空き店舗も多い。「いろいろな人とつながることで、お金では得られないものを受け取っています」と話す幸平さんと、「もしここを始めていなかったら、私たち、何もなかったよね」と笑う和古さん。

週に一度、自分が好きなものを並べるだけでもいいし、ベンチをひとつ置くだけでもいい。まずはシャッターを開けてみる。そうすれば、きっと何か動き出すと教えてくれた。



審査員コメント



その土地らしい取組。近所のおばあちゃんから感度の高い若者まで、世代を超えた交流の場となっている。(加賀崎)



不動産オーナーという立場を最大限に活用したプラン。プレゼンでも語られていたように、同じようなオーナーさんを動かす活動になってほしいと思います。(小野)

奨励賞

リメイクを行う工房とショップが一体になった「街のお針箱」

Atelier RIKA

大里郡寄居町寄居 973-1
http://atelier-rika.com/

元裏絹問屋をリノベーションした工房兼ショップ。着物や洋服のリメイクをはじめ、オーダーメイド、服飾デザインなどを手がけるほか、セレクトした作家の作品やアンティーク雑貨の販売、洋裁教室なども行っている。



寄居の町を変革する、勇気ある最初の第一歩を踏み出した功績が非常に大きい。このあとに続く地域のリノベーション案件の道しるべとなっている。(加賀崎)

地域の事業者が連携して緑化「つくる」前に「つかう」社会実験

GOOD PARK

大里郡寄居町大字寄居 1267-2
https://www.facebook.com/goodpark2020/

中心市街地にある旧役場跡地を活用、公園予定地のポテンシャルを高める広場づくりの実証実験。地域の造園、園芸、エクステリア事業者が連携して緑化を行い、落ち葉プールやキッチンカーが出店するイベントなどを実施した。



地域の資源を活かしつつ、エリアに新しい動きをつくらうとしている。植栽はもちろんのこと、公共施設に新しい「デザイン」が生まれることを期待しています。(藤村)

北本のモノ・ヒト・コトをつなぐシェアキッチン&シェアアトリエ

ケルン

北本市中央 1-109
第二清水ショッピングセンター 105
http://kitamotokurashi.com/

北本でまちづくりを行う「暮らしの編集室」の拠点となるシェアキッチン&アトリエ。地元の野菜を使った飲食店が日替わりで営業するほか、ワークショップや企画展などイベントも開催。改装は市民参加によるDIYで行った。



家賃や企画運営の負担分散など仕組み化ができれば、コンテンツが無理なく集め続けられるはず。ケルンだから、北本だからという個性が徐々に出てくるというですね。(小野)

築100年の空き家になった古民家を一棟貸切旅館にリノベーション

ハウスバード

秩父郡小鹿野町小鹿野 466
https://housebirdjapans.com/

築100年以上の古民家と蔵を改装し、一棟貸切旅館として再生する宿泊事業。利用者は民泊サービスなどで集め、運営の中心は地元のボランティア。小鹿野町を観光地として再活性化し、移住者を増やすことを目指している。



空き家活用、また高齢のオーナー向けの資産運用としても、すばらしいと感じました。今後は、地域の課題解決につながる視点を加えられるとよりよいですね。(小野)

歴史的建造物が商業施設に宿場町の再生プロジェクト

はかり屋

越谷市越ヶ谷本町 8-8
https://hakari-ya.jp/

旧日光街道沿いに建つ120年前のお屋敷を、地元のこだわりのショップやレストランを集めた複合施設へとリノベーション。建物の保存や再生にとどまらず、ツアーやイベントの企画などプロモーションにも力を入れている。



歴史的建築物の風格が失われることなく建築が美しく保たれており、埼玉の新しいイメージを発信している。地元企業の支援と、積極的なテナント誘致も模範的。(藤村)

小商いから起業までを支援する複合型レンタルスペース

コトノハコ

朝霞市東弁財 3-15-3
http://kotonohako.net/

レンタルボックス・レンタルルーム・レンタルデスクなどの「ハコ」を提供。月1000円で小さなショップ、月1万円小さなオフィスが持てるほか、ヨガレッスンや写真館、ワークショップなど地域の人がつながるイベントも。



地域の人材を集めてイベント企画につなげている点、地域に仕事の生態系をつくらせている点がすばらしい。目新しくはないが、時代が追いついてきた気がします。(寺井)

道路拡張で生まれた遊休地を市民が行き交うコミュニティパークに

SOSOPARK

草加市高砂 2-20-35
https://soso-sha.com/sosopark/

道路拡張で生まれた市保有の遊休地を、市民の活動の拠点として活用。常設された地元の人気カフェのほか、キッチンカーやポップアップストアが出店できるレンタルスペースを設け、定期的にマルシェなどのイベントも行う。



公民連携による遊休地の利用という観点から見ると、埼玉県内でも先駆的な物件。エリアにとってSOSOPARKがある風景が当たり前となっている点がすばらしい。(齋藤)

観光客と地域の人たちが交流する中庭のある古民家PUB

ハイランダーイン秩父

秩父市東町 16-1
https://www.highlanderinnchichibu.jp/

イギリスに本店のあるウイスキーバーの秩父店。古民家の懐かしい雰囲気と、アットホームな本場のバブ文化を融合、国内外から訪れる観光客と地元住民の交流の場となっている。中庭を生かしたマルシェイベントも多数。



固定席はあえて最小限にする、事後の使い勝手を優先し細かく決め込みすぎないといった、引き算的なリノベーションが本質を押さえていると感じました。(寺井)

ショップ・コワーキング・イベントみんなが立ち寄る「まちの玄関口」

Bookmark

飯能市仲町 3-2
http://akinai.site/bookmark/

商店街の空き店舗を、ミニショップのほか、イベントやコワーキングなどに使える、みんなのシェアスペースへとリノベーション。ふらっと立ち寄れる「まちの玄関口」の役割を持ちつつ、地域のさまざまなプロジェクトに関わる。



委託事業も手がけるなど、地域との生きたネットワークを地道につくっていると感じました。今後はぜひ、仕組み化、事業の多角化、多拠点化といったチャレンジを。(小野)

幻の織物「蕨双子織」を復活地域資源を活かしたセレクトショップ

WARABI SELECT SHOP

蕨市中央 3-6-4
https://www.warabiselect.shop/

蕨市の優れた逸品の販売など、地域の「ヒト・モノ・情報」が集まるセレクトショップ。明治時代に一世を風靡した「蕨双子織」をはじめ、「わらびの蕨もち」など、地域資源を活かした新商品開発や食のプロデュース事業を行う。



双子織の復活という難しいプロジェクトに踏み出した勇気がすばらしい。ビジネスとしては引き続き、双子織を活かした商品開発などが必要ではないかと考えます。(齋藤)

2020年度まちなかりノベ賞審査プロセス



8月28日 応募開始
10月16日 締め切り

応募(24プロジェクト)

10月下旬 第一次審査

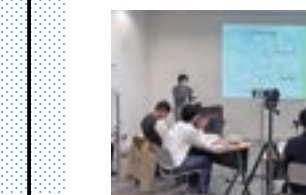
【提出書類】
・応募申請書
・対象事業の写真
・対象事業の場所の案内図

【審査内容】
①事業者概要
②審査対象基礎情報(総事業費・リノベーション開始時期等)
③事業内容(事業の目的や背景・アピールポイント等)
④受賞歴、補正事項等
⑤今後の事業展開
⑥応募事業の売上等の実績及び計画

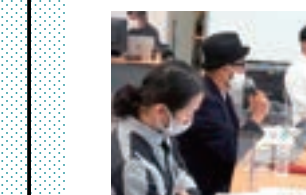
公式Facebookページで応募内容の一部を公開。「いいね」数などを審査の参考としました。

通過(15プロジェクト)

12月5日 第二次審査



プレゼンテーション
1組10分の持ち時間で、プレゼンテーションと質疑応答を行いました。



審査員議論
プロジェクトの発表が終了した時点で、リアルタイムで採点状況を共有し、審査員の議論を経て最終順位を決定しました。

【審査基準】
●独自性: 新たな発想や独自の創意工夫が見られるか
●汎用性: 他地域の取組に応用・再現できるポイントがあるか
●継続性: 事業継続に安定性があるか
●影響力: 波及効果・エリア活性につながるポイントがあるか
●新しい生活様式への対応: これからの時代のヒントになる視点があるか

受賞!(13プロジェクト)

受賞プロジェクト詳細はこちら▶



2020年度の
募集は
終了
しました

空き店舗や空き地等を生かした
地域活性化事例のコンペティション

まちなかりノベ賞



●概要

埼玉県内の商店街や中心市街地にある空き店舗、空き地等を活用し、地域に賑わいを生んだ事例を表彰するコンペティションです。建築物の改修はもちろん、軒先の使い方の工夫などを含めた広い意味での“リノベーション”事例を対象に、地域活性化につなげたアイデアや視点を評価します。

●審査員

greenz.jp ビジネスアドバイザー 小野裕之	建築家 / 東京藝術大学准教授 / RFA 主宰 藤村龍至
PUBLIC DINER 代表取締役 加賀崎勝弘	埼玉県信用金庫地域創生部 部長 齋藤邦裕
まちづくりクリエイティブ 代表取締役 寺井元一	埼玉県産業労働部 副部長 新里英男

●応募要項

募集期間	2020年8月28日(金)～10月16日(金) ※消印有効		
賞金	最優秀賞(1件) 賞金100万円	優秀賞(2件) 賞金25万円	奨励賞(10件) 賞金5万円
対象者	小売業・飲食業・サービス業等を営む中小企業者等 ※個人事業者を含みます。 2011年4月1日から2021年3月31日までの間にリノベーション事業を開始すること		
対象地域	埼玉県内全域（さいたま市を除く）		
応募要件	① 商店街及び中心市街地にある遊休資産を活用していること。 ② 地域の賑わいを創出し、地域の魅力向上に貢献していること。 ③ リノベーションにより実施する事業の業態も小売・飲食・サービス業等であること。 ※リノベーションの手法や考え方をういたものであれば、新しい空間活用の手法など社会実験的な取組やコミュニティデザインといった、中・長期的視点に立ったプロジェクトなどを含みます。また、空き地などの遊休資産に新しく建築物を建設する事業が含まれていても応募の対象となります。		
選考方法	第一次審査 書類審査10月下旬	第二次審査 公開プレゼン審査 12月5日	

2020年度を振り返って

埼玉県内の商店街を活性化する「NEXT商店街プロジェクト事業」の一貫として、2018年度にスタートした本コンペティション。3年目となる本年度は、コンペ自体の「リノベーション」をテーマに、①ハードルを下げる、②裾野を広げる、③認知度を上げる、といった3つの改革を行いました。その年に工事が完了したプロジェクトだけでなく、

制限年数を過去10年に広げる。また「リノベーション」をより広義に解釈し、空き地を利用した社会実験などの取組の応募も可能に。さらに、Facebookによる参加型の評価や、二次審査会のオンライン配信など情報発信についても強化しました。結果として、「どうつくったか」よりも「どう使われたか」という視点がより重要となり、惜しくも選考が

ら漏れたプロジェクトの中にも、オリジナリティのある幅広い取組が見られました。新型コロナウイルスの影響で、残念ながら受賞式は開催できませんでしたが、今後も応募者間の交流や情報交換、事例のアーカイブ化などを通じて、県内のさまざまなエリアに「まちなかりノベ」のムーブメントを広げていきたいと考えています。

埼玉県の商業・商店街支援策については、こちらをご覧ください
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0802/shoutengai/syogyoshisaku.html>



埼玉県マスコットコバトン&さいたまっち

